

授業科目名： 器械運動（体づくり運動を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川口 諒
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>体づくり運動としての、体力の向上や疾病予防について理解するとともに、器械運動の各種目に関して、保健体育科教員として必要とされる基礎的な知識や技能を身に付ける。</p> <p>体づくり運動のねらいや特性を理解し、器械運動の技能を習得し、安全に指導する力を養う。</p>			
授業の概要			
<p>・体づくり運動では、物を使う動き、人と合わせる動き、仲間と交流する動き、器械運動では、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動といった内容を取り扱う。各運動種目の中で、体づくり運動や器械運動の特性や意義について考えたり、自らの体を用いて技や動きを習得することの楽しさや喜びを味わったりできるように、教師と学生間や学生同士のコミュニケーションを効果的に用いるなどの指導上の工夫を行う。また、学生による指導実践を行い、各運動種目の深い理解を促すよう努めることとする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：さまざまなウォーミングアップ、体ほぐしの運動</p> <p>第3回：有酸素性トレーニングの種類と特徴</p> <p>第4回：正しいジョギング・ウォーキング法</p> <p>第5回：敏捷性を高める運動</p> <p>第6回：調整力を高める運動</p> <p>第7回：柔軟性を高める運動</p> <p>第8回：マット運動（接転群・ほん転群）</p> <p>第9回：マット運動（技の連続）</p> <p>第10回：跳び箱運動（切り返し跳びグループ）</p> <p>第11回：跳び箱運動（回転跳びグループ）</p> <p>第12回：鉄棒運動（低鉄棒）</p> <p>第13回：鉄棒運動（高鉄棒）</p> <p>第14回：指導の実際</p> <p>第15回：実技評価と解説</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）</p>			
学生に対する評価			
実技評価（50%）、活動内容（20%）、制作物・提出物（30%）で評価する。			

授業科目名： 陸上競技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 八尋 風太
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 指導者として、陸上競技の特性と技能を身につける。			
授業の概要 ・陸上競技について、それぞれの種目の特性に応じた技能を獲得すると同時に、安全に活動するための指導方法を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：陸上競技のウォーミングアップ 第3回：短距離走（スピードに乗った走り方） 第4回：短距離走（スタートダッシュ） 第5回：短距離走（リレー、バトンパス） 第6回：ハードル走（ハードリング練習法） 第7回：ハードル走（スピードを維持した走り） 第8回：ハードル走（低くリズムカルなハードリング） 第9回：ハードル走（記録測定） 第10回：砲丸投げの指導法 第11回：砲丸投げの記録測定 第12回：跳躍の動きとトレーニング 第13回：助走と踏切（幅跳び） 第14回：助走と踏切（高跳び） 第15回：跳躍の記録測定とまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）			
学生に対する評価 実技評価（50%）、活動内容（20%）、制作物・提出物（30%）で評価する。			

授業科目名： 水泳・水中運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 坂口英章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 水泳・水中運動の運動特性、技能、およびその効果や安全な指導方法を学ぶことを目標とする。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳・水中運動に対する基礎的な知識・特性を理解する。</li> <li>・音楽に合わせた動きを通し、アクアビクス指導方法、レクリエーションを習得する。</li> <li>・目的や年齢に応じたプログラムを作成することができる。</li> </ul>			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：水の特性と水中運動の特性、心拍数と運動強度 第3回：水泳・水中運動と安全対策 第4回：水中運動（ウォーキング） 第5回：水中運動（トレーニング） 第6回：呼吸、立ち方、浮き沈み、姿勢 第7回：水泳（クロール） 第8回：水泳（背泳ぎ） 第9回：水泳（平泳ぎ） 第10回：水泳（バタフライ） 第11回：アクアビクス（体験） 第12回：アクアビクス（プログラム作成） 第13回：実技発表（ウォーキング、トレーニング） 第14回：実技発表（アクアビクス） 第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）			
学生に対する評価 実技評価を中心に受講態度を含め総合的に評価する。			

授業科目名： バスケットボール	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 片桐章光
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、指導者として必要なバスケットボールの技能を身につけるとともに、仲間と連携しての攻防について指導できる。</li> <li>・チームスポーツとして仲間と協力したり、ルールを守り安全に配慮できたりする態度を身に付け、様々なレベルに合わせた指導ができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技としてのバスケットボールの特性を理解し、その実技指導に重点を置き、基本技能を習得する。</li> <li>・様々なゲームを中心に行いながらバスケットボールの楽しさを理解するとともに、チームプレーを通して、バスケットボールの戦術を理解し、その指導法についても学ぶ。</li> </ul>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：ボールを運ぶ（ドリブル）			
第3回：ボールを運ぶ（パス）			
第4回：ドリブル、パスからのシュート技術			
第5回：ジャンプシュートの技術			
第6回：2組、3組のシュート技術			
第7回：ポゼッションを高める			
第8回：1対1の攻守			
第9回：ディフェンスの基本			
第10回：3対3、4対4のディフェンス技術			
第11回：ディフェンスからオフェンス練習			
第12回：オフェンスからディフェンス練習			
第13回：フォーメーションの練習（アウトサイドの役割）と試合			
第14回：フォーメーションの練習（インサイドの役割）と試合			
第15回：まとめ			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）			
学生に対する評価			
実技評価を中心に受講態度を含め総合的に評価する。			

授業科目名： バドミントン	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 蘭 和真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>まずバドミントンの基本技術の習得を目指す。次に、中学校・高校でバドミントンの授業を担当できるようになることを目標に、技術ばかりではなく、ルール、審判法、戦術、簡単な大会の運営法などを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>バドミントンは約80平方メートルのコートの中で重量約100グラムのラケットを用いて5グラムのシャトルを打ち合うスポーツである。用具が軽量なため初心者にもなじみやすいスポーツの一つと言えよう。その一流選手のスマッシュのスピードは球技最速で、時速300キロを超えることがあるとも言われる。しかし空気抵抗が大きいいためシャトルはレシーブ時には大きく減速し、時速50km以下になる。上達に従いネット際へのドロップやヘアピンといったショット、あるいはフェイントなど技術的な要素も重要になる。豪快さと繊細さをあわせもつスポーツである。学校体育でも広く行われている。この授業ではバドミントンを基礎から学び、その楽しさを体験するとともに、指導法にも触れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 授業の進め方、傷害や危険性、用具についてなどの説明</p> <p>第2回：ラケットィング ラケットに慣れる、ラケット操作、グリップ</p> <p>第3回：フライト1 ドライブ</p> <p>第4回：フライト2 ロングハイサービス、ドロップ</p> <p>第5回：フライト3 スマッシュ、ハイクリア</p> <p>第6回：フライト4 ショートサービス、ヘアピン（ネットショット）</p> <p>第7回：フットワーク1 オールショート、オールロング</p> <p>第8回：フットワーク2 ドロップ交互、スマッシュ交互</p> <p>第9回：シングルス1 シングルスのルール、戦術、審判法</p> <p>第10回：シングルス2 ゲームの運営</p> <p>第11回：ダブルス1 ダブルスのルール、戦術、審判法</p> <p>第12回：ダブルス2 フォーメーション</p> <p>第13回：ダブルス3 ゲームの運営</p>			

第14回：実技テストと解説

第15回：まとめ 総括

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）

学生に対する評価

授業に取り組む姿勢(50%)、レポート(30%)、実技テスト(20%)により評価する。

授業科目名： ダンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山口 晏奈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 エアロビックダンスの特性と効果および注意点について理解を深め、音楽に合わせた表現力豊かなダンス運動の指導者として必要な技能を修得する。また、効果的で安全な運動プログラムの作成と指導上の留意点について理解する。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアロビックダンスの特性と効果を理解する。</li> <li>・一連の運動動作を習得し、特徴や注意点を理解する。</li> <li>・対象や目的に応じた運動プログラムを作成し、安全かつ効果的に指導することができる。</li> </ul>			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：ウォーミングアップ 第3回：クーリングダウン 第4回：エアロビックダンス1（ローインパクト） 第5回：エアロビックダンス2（ハイインパクト） 第6回：エアロビックダンス3（リード練習） 第7回：各部位のトレーニング1（腹部） 第8回：各部位のトレーニング2（上肢） 第9回：各部位のトレーニング3（下肢） 第10回：ツール（道具）を用いたダンス運動1（ステップ台） 第11回：ツール（道具）を用いたダンス運動2（ボール） 第12回：対象者別に応じたダンスプログラムの作成1（高体力者） 第13回：対象者別に応じたダンスプログラムの作成2（低体力者） 第14回：実技試験と解説 第15回：実技試験と解説			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）			
学生に対する評価 実技評価を中心に受講態度を含め総合的に評価する。			

授業科目名： 剣道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 富田 剣太郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 剣道の基本技術を習得する。</li> <li>2. 武道の伝統的な行動の仕方、礼法を理解する。</li> <li>3. 剣道の基本技術・礼法の指導ができるようになる。</li> <li>4. 剣道の試合規則・審判法を理解し、試合を行うことができる</li> </ol>			
授業の概要			
<p>武道は日本固有の伝統文化として受け継がれてきたものとして、本質を正しく理解し、相手を敬う心や感謝する心、平常心などの武道精神を学び、指導法を養う。武道は勝敗を競うだけのものではなく、人間形成が目的とされるものであることを認識しながら基本技術を学ぶ。体力や習熟度に合わせた指導法と事故予防についても学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、武道の伝統と文化（講義形式）</p> <p>第2回：剣道の着装と竹刀の取り扱い（剣道着・袴とは、竹刀とは、有効打突とは）</p> <p>第3回：基本動作（構えと足さばき：前進、後退、右、左、斜め前、斜め後）</p> <p>第4回：基本動作（竹刀の握り・素振り：正面素振り）</p> <p>第5回：基本動作（さまざまな素振り：正面素振り、左右面素振り、上下素振り）</p> <p>第6回：空間打突と竹刀への打突（面技・小手技・胴技）</p> <p>第7回：防具の特徴と着脱（防具とは、紐の結び、防具を着けての構え、蹲踞）</p> <p>第8回：防具着用と基本技術（防具の着脱と面技、小手技、胴技）</p> <p>第9回：防具着用と基本技術（連続技、二段技、引き技）</p> <p>第10回：日本剣道形（太刀七本：打突の機会とは）</p> <p>第11回：対人技能と実戦稽古（応じ技：面に対してと小手に対して）</p> <p>第12回：実戦稽古（打突の機会の理解と連続技）</p> <p>第13回：実戦稽古と簡易試合稽古（試合の進め方と審判法）</p> <p>第14回：実戦稽古と簡易試合稽古（審判法と有効打突の判断）</p> <p>第15回：実技試験とまとめ</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成29年3月 文部科学省）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（平成30年3月 文部科学省）</p>			
学生に対する評価			
実技評価を中心に受講態度やレポートを含め総合的に評価する。			

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 八尋 風太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 健康スポーツ心理学における様々な理論を理解し、体育授業場面や健康づくり指導場面における具体的な事象を心理学的に把握することができるようになる。また、スポーツ場面における心理的状況の把握や心理的競技能力の向上について理解する。			
授業の概要 健康・スポーツに関連する様々な心理学的理論について解説するとともに、具体的な指導場面や実践場面についてその理論がどのように活用されているのかを検討していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：スポーツ心理学とは 第3回：競技者に必要な心理的スキル 第4回：やる気を高めるには 第5回：競技に必要なよい緊張感を作るには 第6回：集中力を高めるには 第7回：自信を高めるには 第8回：競技の作戦をトレーニングする 第9回：競技前の心理的準備と競技後の評価 第10回：チームづくりに必要な心理的要因 第11回：スポーツ技術獲得の心理的課題 第12回：健康スポーツの心理学 第13回：運動・スポーツで心の健康は高められるか 第14回：健康行動への動機づけ 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 これから学ぶスポーツ心理学 改訂版（荒木雅信著、大修館書店） 教養としてのスポーツ心理学 （徳永幹雄 大修館書店）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、授業への参加度（20%）、レポート（30%）で評価する。			

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂口 英章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 この講義では、スポーツにおける社会的状況の変化を捉え、高度化、多様化、大衆化、商業化などのキーワードで語られるスポーツの功罪、またスポーツが政治に与える影響を理解し、今後のスポーツのあるべき形を考え学んでいく力をつけることを目標とする。			
授業の概要 現在のスポーツは政治、経済、文化、教育などといった社会的緒力との相互関係の中で存在している。特に日本においてスポーツと政治経済や、各年代がどのように交流していくことが望ましいかを考える。更に、「みる」「する」「支える」スポーツは社会との分かちがたい関係があることを検討していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：スポーツ社会学とは 第3回：スポーツ集団 第4回：スポーツと政治・経済 第5回：子どもとスポーツ 第6回：女性とスポーツ 第7回：スポーツとジェンダー問題 第8回：高齢者および障害者とスポーツ 第9回：企業スポーツ 第10回：現代社会とスポーツ 第11回：地域におけるスポーツ 第12回：スポーツ指導者の役割 第13回：スポーツの国際化 第14回：日本および世界におけるスポーツの振興 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 現代スポーツ社会学序説（海老原 修著、杏林書院出版）			
参考書・参考資料等 公認スポーツ指導者養成テキスト			
学生に対する評価 定期試験（60%）、講義参加態度（40%）により総合的に評価する。			

授業科目名： 運動機能解剖学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 光井信介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 身体運動における骨・筋の解剖学的知識とその働き及び運動様式を理解する。また、身体運動における力学的な特性を理解し、効果的な運動の仕方を習得するための重要な知識を学ぶ。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体運動に関する骨や筋の名称を説明することができる。</li> <li>・身体運動を力学的に説明できる。</li> <li>・動きやスキルの効果的な指導への応用ができる。</li> </ul>			
授業計画 第1回：機能解剖学と身体運動 第2回：筋肉と骨の構造 第3回：上肢の筋と骨の構造と働き 第4回：体幹の筋と骨の構造と働き 第5回：下肢の筋と骨の構造と働き 第6回：呼吸循環器系の構造 第7回：関節の仕組みと運動 第8回：運動と生体力学 第9回：弾性エネルギーと運動様式 第10回：歩・走運動のバイオメカニクス 第11回：跳運動のバイオメカニクス 第12回：投運動のバイオメカニクス 第13回：スキルの獲得と獲得過程 第14回：運動方法 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 「基礎から学ぶ運動学ノート」中島雅美、中島喜代彦著 医歯薬出版株式会社			
参考書・参考資料等 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和、南江堂			
学生に対する評価 定期試験（60%）、課題レポート（40%）で評価する。			

授業科目名： 地域スポーツ振興論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂口 英章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>本講義から、地域におけるスポーツの役割を考え、日本のスポーツの普及と発展を創造し実行できる力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解：地域のスポーツ活動の意義を理解できる。</li> <li>・技 能：地域に適したスポーツを調査できる。</li> <li>・意欲・態度：最適な地域スポーツを討議できる</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>地域スポーツの振興を考えるため、1961年のスポーツ振興法の制定から現在のスポーツ振興基本計画を研究し、我が国のスポーツシステムの構築の必要性を考えていく。また、地域に根付くスポーツクラブについて考えることを目的とする。</p>			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 第2回：現代社会とスポーツのかかわり 第3回：地域社会におけるスポーツの役割 第4回：海外のスポーツクラブ 第5回：地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり（I-8-①） 第6回：総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義1（I-8-②） 第7回：総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義2（I-8-②） 第8回：地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」1（I-8-③） 第9回：地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」2（I-8-③） 第10回：我が国のスポーツ振興施策1（II-1-②） 第11回：我が国のスポーツ振興施策2（II-1-②） 第12回：スポーツ活動とボランティア 第13回：地域スポーツクラブの機能と役割1 第14回：地域スポーツクラブの機能と役割2 第15回：まとめ地域スポーツクラブの機能と役割3 定期試験			
<b>テキスト</b> 特になし			
<b>参考書・参考資料等</b> 公認スポーツ指導者養成テキスト			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する。			

授業科目名： スポーツ史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蘭 和真 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>広義のスポーツと狭義のスポーツの成り立ちを探ることによってスポーツの本質を理解することをめざす。そして、スポーツを行う意味をスポーツの歴史から学ぶ。さらに、そのことによって、将来、スポーツ指導者やスポーツリーダー、あるいは、教師になったときに、スポーツのあるべき姿を語れるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツの語源は、ラテン語で気晴らしという意味を持つデポルターレという言葉にある。この言葉が14世紀頃にイギリスへ伝わりディスポートに変化し、そして16世紀頃にスポーツという言葉が生まれた。スポーツの始まりは身体活動による気晴らしであったか、時代が近代を迎えるようになった頃に現在私たちが楽しんでいる近代スポーツが誕生したのであるが、本講義では、この歴史的な変遷について、時代を追って概観していく。また、特に、イギリスとアメリカで生まれたスポーツが誕生した時代背景についても、種目毎に取り上げる。同時に、日本で考え出されたスポーツや障がい者スポーツの生まれた背景についても考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：スポーツとは 広義のスポーツと狭義のスポーツ</p> <p>第2回：オリンピックを知る 古代オリンピックと近代オリンピック</p> <p>第3回：障がい者スポーツを知る 障がい者スポーツの始まり</p> <p>第4回：女性とスポーツ 女性スポーツの発展の歴史と男女平等</p> <p>第5回：日本で生まれたスポーツを知る I 柔道と剣道の歴史</p> <p>第6回：日本で生まれたスポーツを知る II 日本的スポーツ教育環境</p> <p>第7回：メディアとスポーツ メディアとスポーツの関わりの歴史</p> <p>第8回：野球を知る I アメリカで生まれた野球</p> <p>第9回：野球を知る II 高校野球と日本プロ野球の歴史</p> <p>第10回：近代スポーツの成立を知る 近代スポーツの母国、英国について</p> <p>第11回：フットボールを知る サッカーとラグビーの起源</p> <p>第12回：ラケットスポーツを知る I テニスの起源</p>			

第13回：ラケットスポーツを知るⅡ バドミントンと卓球の起源

第14回：ドーピング ドーピングの歴史

第15回：歴史から見る体育とスポーツの違い イギリスのパブリックスクール

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。またビデオ教材を用いる場合がある。図書館に各種実技指導書が揃っているので、必要に応じて参照できる。

学生に対する評価

毎回の授業の最後に課す小レポート(70%)、期末に課すレポート(30%)

授業科目名： スポーツ生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 公喜
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	・生理学（運動生理学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>・身体活動時の体内状態を単に机上の論にとどまることなく、マーケットの実際として役立つように、事例と合わせて教育する。運動による神経、感覚、呼吸循環、血液、内分泌、体温調節、栄養、加齢への影響と身体適応を科学し、身体活動の意義を考え、運動指導時の科学的基礎を習得する。</p> <p>・エアロビック運動の特性と期待できる効果について科学的裏づけをもとに学習し、無酸素性作業閾値などから、目的に応じた運動強度を判断できるように図る。また、エアロビクスや健康づくりの指標となる最大酸素摂取量やエネルギー供給機構の関係から、運動強度（脈拍数によるチェック）・運動時間・運動頻度を求め適切なエアロビック運動プログラムが作成できるようにする。①減量や生活習慣病予防のための健康づくりなどの科学的裏づけと実際の実施方法を修得する。②アマチュアやプロアスリートの正しい目的別トレーニング方法を学習する③学習したことがビジネスとして成立するように理解する。④理論にとどまらず、現場で指導できるようにする。</p>			
授業の概要			
<p>世の中では、常に様々な情報が飛び交う中で、流行りだけにながされず、科学的に正しい方法を学習する。やせる方法や体力を向上したり、競技会で優勝するためのトレーニングの方法や健康づくりの実際的な仕方などを修得する。健康科学が仕事としてどのように活用されているかを学び、その魅力と方法論を学習する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：目的別運動効果がわかる：有酸素運動・無酸素運動、骨格筋の構造と働き			
第3回：骨格筋のタイプとトレーニング効果			
第4回：トレーニングの急所：運動強度の違いが、代謝、骨格筋に及ぼす生理学的効果。エネルギー合成			
第5回：運動と神経：伝達・統合神経の適応、スキル・体力と神経運動と感覚：感覚受容の仕組み、反射			
第6回：種目で異なるエネルギー供給機構、エネルギー消費			
第7回：呼吸循環器の基礎、酸素摂取量・換気、心電図・心拍数・血圧と運動強度別変化			
第8回：運動と内分泌：ホルモンの種類とその働き			
第9回：運動と免疫と健康、体温の関係			
第10回：ヒトがもつ優れた能力：運動時のホメオスタシス、体温、水分調節			
第11回：障がい者と身体活動			
第12回：メタボリック対策にもなる運動時のエネルギー消費量の理解			
第13回：目的別、疾患別の運動生理学のエビデンスを活かしたプログラム			
第14回：健康づくりのための運動の実学			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 運動生理学読本（増原 光彦著、不味堂出版）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 定期試験（60%）、講義参加態度（40%）により総合的に評価する。

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朝尾 直介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	・衛生学及び公衆衛生学		
授業のテーマ及び到達目標 保健体育の教員免許状取得のための必修科目として、予防医学を含む衛生学及び公衆衛生学の基礎知識を身につける。			
授業の概要 衛生学は、治療学から予防医学的基盤を学び取り、日常生活における適応を確立することを目的としている。また、公衆衛生学では、児童・生徒の生命、健康及び学習能率の維持向上を目的としている。特に本講義では、衛生学を基盤にして、この児童・生徒の生命、健康及び学習能率の維持向上を図るための保健教育の役割を理解する。さらに、学校保健活動の向上に寄与できるように、初歩の医学的基礎知識を学び、初歩医学的な考え方を修得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：公衆衛生学の概念 第2回：保健統計：保健統計の概念 第3回：疫学：疫学の基礎知識と因果関係の考え方 第4回：生活習慣病：生活習慣病の現状と主要疾患の概念 第5回：地域保健：地域保健と保健所 第6回：母子保健：母子保健の現状と対策 第7回：精神保健：精神障害者の現状と精神保健の意義 第8回：保健医療制度：保健医療の制度と法規 第9回：感染症 第10回：免疫：免疫と抗体の基礎及びワクチン 第11回：予防接種：予防接種の意義と問題点、各種予防接種の時期 第12回：アレルギー：アレルギーの概念、食物アレルギーと除去食 第13回：食中毒：食中毒の原因と対策 第14回：環境保全：環境問題の理解とその改善方法 第15回：総括 定期試験			
テキスト わかりやすい公衆衛生学（清水忠彦・佐藤拓代著、ヌーヴェルヒロカワ出版）			
参考書・参考資料等 最新公衆衛生学（上野仁・中室克彦・小嶋仲夫編集、廣川書店出版）			
学生に対する評価 定期試験（80％）、講義参加態度（20％）により総合的に評価する。			

授業科目名： 学校保健概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 優子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項	・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 学校保健の概要と基本的な理論を理解するとともに、学校において健康教育を進めていくために必要な実践力の基礎を身につける。			
授業の概要 児童・生徒に健康で安全な学校生活の場を提供し、健全なからだと心の発育・発達を促すことを主たる目的とする学校保健の内容を概説する。児童・生徒の様々な健康問題等について、小児保健、精神保健の立場からも取り上げる。また、事故防止について学校安全と救急処置を取り上げる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：学校保健の概要 第3回：学校保健組織活動、学校保健計画 第4回：保健教育（保健学習・保健指導） 第5回：学校における性教育 第6回：学校における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育 第7回：エイズ教育、歯・口の健康づくり 第8回：児童・生徒の健康把握と評価：健康観察 第9回：児童・生徒の健康把握と評価：健康相談 第10回：児童・生徒の健康把握と評価：保健調査 第11回：児童・生徒の健康把握と評価：健康診断、発育発達 第12回：健康障害とその指導、精神の健康 第13回：障がいのある児童・生徒とその指導 第14回：応急手当、学校の安全と危機管理 第15回：食育、学校保健のまとめ 定期試験			
テキスト 学校保健ハンドブック（教員養成系大学保健協議会、ぎょうせい出版）			
参考書・参考資料等 学校保健実務必携（学校保健・安全実務研究会、第一法規出版）			
学生に対する評価 定期試験（80%）、講義参加態度（20%）により総合的に評価する。			

授業科目名： 救急処置法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 優子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全および救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域、職場、家庭、学校等で発生している事故や疾病の現状や発生要因等を説明できる。</li> <li>・ 正常な状態と病気や傷害などの状態との違いを説明できる。</li> <li>・ 非医療従事者のできる範囲の救急処置（連絡・通報・運搬を含む）を行うことができる。</li> <li>・ AEDを用いたBLSを自ら行うとともに、他者に指導することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、地域、職場、家庭、学校など様々な場面で発生している事故等の現状や発生要因等について知り、事故の発生に伴う傷害、あるいは疾病悪化の防止や傷病者の苦痛緩和のために適切な救急処置がいかに有用であるかを理解することをめざす。また、救急処置の実技トレーニングを通して処置の手順や方法を実践的に学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～地域、家庭、学校で発生する事故や疾病の現状～</p> <p>第2回：救急法の目的・範囲および基本的な手順</p> <p>第3回：傷病者の安静確保</p> <p>第4回：止血法～直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯法（実技）</p> <p>第5回：傷害・疾病の特徴と救急処置（1）頭部外傷、頸部外傷、胸部損傷、腹部損傷</p> <p>第6回：傷害・疾病の特徴と救急処置（2）四肢損傷、骨折、腓返り、脊髄損傷、脊椎損傷</p> <p>第7回：傷害・疾病の特徴と救急処置（3）熱傷、凍傷、溺水、熱中症</p> <p>第8回：傷害・疾病の特徴と救急処置（4）咬傷、虫刺され、アナフィラキシーショック</p> <p>第9回：傷害・疾病の特徴と救急処置（5）突然の胸痛、突然の腹痛、けいれん、脳卒中、食中毒</p> <p>第10回：運搬法と骨折処置（実技）</p> <p>第11回：BLSの理論と実践（1）BLSの意義と日本の救急事情</p> <p>第12回：BLSの理論と実践（2）心肺蘇生法、PAD、AED</p> <p>第13回：BLSの理論と実践（3）意識確認、頸動脈触診・呼吸の確認、人工呼吸、胸部圧迫（実技）</p> <p>第14回：BLSの理論と実践（4）コンビネーション（実技テスト）</p> <p>第15回：BLSの理論と実践（5）BLS総合シミュレーション（AED、各種パターン応用実技）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			

参考書・参考資料等

IEMA CPR & AED TEXT NOTEBOOK (国際救命救急協会)

随時紹介

学生に対する評価

レポート (40%)、定期試験 (60%)

授業科目名： 保健体育科教育法 IA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川口 諒
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「体育」授業の原理・原則、学習評価のあり方を理解し、「指導と評価の一体化」に基づく授業計画の立案及び授業の設計、教材研究、学習資料の作成などの「体育」授業実施に必要な知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校及び高等学校における保健体育科の意義、目標、内容及び方法に関する基本的事項を説明することができる。</li> <li>・ 「体育」授業について、初等・中等教育の全体像を把握し、年間計画、単元指導計画、本時の指導計画の関係性を説明することができる。</li> <li>・ 指導計画、学習指導案、教材及び学習評価の作成等に関する基本的事項を説明することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、中学校及び高等学校における保健体育科教育の意義、目標、内容及び方法を学ぶとともに、学習指導要領（解説を含む）に示されている「体育の見方・考え方」に関する理解を深めていく。また、特に「体育」授業における「主体的・対話的で深い学び」のあり方、具体的な授業設計の方法や指導方法、ならびに教材研究・作成について、グループワークを通して探求していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：保健体育科教育の意義及び目標と学校現場の現状</p> <p>第3回：学習指導要領の歴史的変遷と保健体育科教育</p> <p>第4回：保健体育科教育のカリキュラムマネジメント</p> <p>第5回：保健体育科教員に求められる資質・能力</p> <p>第6回：学習指導要領（解説）における「体育の見方・考え方」と学習内容及び方法</p> <p>第7回：体育授業の設計～「主体的・対話的で深い学び」をめざす授業</p> <p>第8回：体育授業における学習指導案の作成</p> <p>第9回：体育授業の教材研究及び学習資料作成方針とその活用（ICT活用を含む）</p> <p>第10回：体育の形成的評価法</p> <p>第11回：体育授業の運営～学習形態の工夫</p> <p>第12回：体育授業における導入の工夫～運動の場づくり</p>			

第13回：体育授業における基本的な教授技術

第14回：体育授業における運動観察・分析及び生徒の支援

第15回：体育授業における「目標と評価の一体化」

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布

学生に対する評価

課題・レポート（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 保健体育科教育法 I B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川口 諒
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「体育」の学習指導に必要な専門的力量－単元・授業計画、授業実践、授業分析、評価、改善における実践力及び省察力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法 I で学修した中等教育における保健体育科の意義と目標、及び「体育」の授業実践における基本的な知識・理解を踏まえて、単元計画を立案できる。</li> <li>・単元計画に基づき、学習目標・内容・評価が一体となった学習指導案を作成できる。</li> <li>・素材、教材、教具について理解し、ICT活用を含めた教材を開発できる。</li> <li>・開発・作成した教材・教具を、授業に生かすことができる。</li> <li>・学習指導案に基づいた授業を実施し、その後授業の分析、省察を通して、授業改善の手立てを講じることができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、保健体育科教育法 I における学びを踏まえて、「指導と評価の一体化」をめざした「体育」授業の計画立案、授業設計、教材・教具の開発、学習指導等における実践方法について理解を深めるとともに、学習指導案の作成や模擬授業の実施、またグループワークによるリフレクションを通して、「主体的・対話的で深い学び」を可能とする「体育」授業実践の探求に積極的に取り組んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：体育学習指導案づくりのための単元構造図作成</p> <p>第3回：学習指導案作成と教材開発（1）体づくり運動</p> <p>第4回：学習指導案作成と教材開発（2）バスケットボール</p> <p>第5回：学習指導案作成と教材開発（3）陸上競技</p> <p>第6回：単元計画・学習指導案の見直し、グループワーク（意見交換）、修正</p> <p>第7回：模擬授業（1）体づくり運動</p> <p>第8回：模擬授業（2）バスケットボール</p> <p>第9回：模擬授業（3）陸上競技</p> <p>第10回：模擬授業（4）ダンス</p> <p>第11回：模擬授業（5）剣道</p> <p>第12回：単元計画・学習指導案の見直し、グループワーク（意見交換）、修正</p>			

第13回：授業評価とリフレクションについて（1）学習指導案の改善  
第14回：授業評価とリフレクションについて（2）授業分析・省察・改善  
第15回：まとめ  
定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）  
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布

学生に対する評価

学習指導案の作成・模擬授業（50%）、課題・レポート（50%）

授業科目名： 保健体育科教育法ⅡA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川口 諒
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「保健」授業に関する基本事項について理解を深めるとともに、「指導と評価の一体化」に基づく授業計画の立案及び授業の設計、教材研究、学習資料の作成などの「保健」授業実施に必要な知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会における保健教育の意義と教育課題、ならびに今後の保健教育のあり方について説明することができる。</li> <li>・ 中学校及び高等学校における保健教育の意義、目標、内容及び指導方法に関する基本的事項を説明することができる。</li> <li>・ 保健の授業について、初等・中等教育の全体像を把握し、年間計画、単元指導計画、本時の指導計画の関係性を説明することができる。</li> <li>・ 指導計画、学習指導案、教材作成及び学習評価の方法等に関する基本的事項を説明することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、現代社会における保健教育の意義と教育課題を考察するとともに、中学校及び高等学校における保健体育科教育における「保健」教育の重要性や意義について理解を深める。さらに、「保健」の授業における「主体的・対話的で深い学び」のあり方、具体的な授業設計の方法や指導方法、ならびに教材研究・学習資料作成の方法など、「保健」学習指導の基本的な知識技術を学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：現代社会の健康問題（1）日本及び世界の現状</p> <p>第3回：現代社会の健康問題（2）子どもの実態</p> <p>第4回：保健体育科教育における保健教育の意義及び目標と学校現場の現状</p> <p>第5回：保健教育の実践を考える</p> <p>第6回：健康支える環境づくり（1）環境と健康</p> <p>第7回：健康支える環境づくり（2）食と健康</p> <p>第8回：健康支える環境づくり（3）運動／休養と健康</p> <p>第9回：保健授業の単元計画と学習指導案作成</p> <p>第10回：保健授業における形成的評価法</p>			

第11回：保健授業の教材研究及び学習資料作成方針とその活用（ICT活用を含む）

第12回：保健授業の運営～学習形態の工夫

第13回：学習指導案作成と教材開発

第14回：模擬授業とふり返し

第15回：まとめ～保健授業における「目標と評価の一体化」

定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布

学生に対する評価

課題・レポート（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 保健体育科教育法ⅡB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川口 諒
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「保健」の学習指導に必要な専門的力量－単元・授業計画、授業実践、授業分析、評価、改善における実践力及び省察力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科教育法Ⅱで学修した中等教育における保健教育の意義と目標、及び「保健」の授業実践における基本的な知識・理解を踏まえて、単元計画を立案できる。</li> <li>・単元計画に基づき、学習目標・内容・評価が一体となった学習指導案を作成できる。</li> <li>・素材、教材、教具について理解し、ICT活用を含めた教材を開発できる。</li> <li>・開発・作成した教材・教具を、授業に生かすことができる。</li> <li>・学習指導案に基づいた授業を実施し、その後授業の分析、省察を通して、授業改善の手立てを講じることができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>本授業では、保健体育科教育法Ⅱにおける学びを踏まえて、「指導と評価の一体化」をめざした「保健」授業の計画立案、授業設計、教材・教具の開発、学習指導等における実践方法について理解を深めるとともに、学習指導案の作成や模擬授業の実施、またグループワークによるリフレクションを通して、「主体的・対話的で深い学び」を可能とする「保健」授業実践の探求に積極的に取り組んでいく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業づくり			
第3回：保健授業の設計と学習指導案の作成（グループワーク）			
第4回：保健授業における学習形態の工夫と教材開発（グループワーク）			
第5回：保健授業における基本的な教授技術			
第6回：学習指導案の作成と教材開発（1）導入部の工夫			
第7回：模擬授業（1）			
第8回：学習指導案の作成と教材開発（2）教材・学習資料の工夫（ICT活用を含む）			
第9回：模擬授業（2）			
第10回：学習指導案の作成と教材開発（3）学習形態の工夫			
第11回：模擬授業（3）			
第12回：単元計画・学習指導案の見直し、グループワーク（意見交換）、修正			

第13回：授業評価とリフレクションについて（1）学習指導案の改善  
第14回：授業評価とリフレクションについて（2）授業分析・省察・改善  
第15回：まとめ  
定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）  
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布

学生に対する評価

学習指導案の作成・模擬授業（50%）、課題・レポート（50%）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河口 陽子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基本的概念と機能、ならびにわが国の教育理念及び目標について説明できる。</li> <li>・代表的な教育家を挙げながら、子ども、学校、教育・学習等などに関わる思想について説明できる。</li> <li>・各種審議会の答申を踏まえながら、わが国の教育政策の動向を説明できる。</li> <li>・教育の今日的諸問題を学校教育の制度的、原理的、政策的特徴の観点から多角的に読み解くことを通して、教育が抱える問題の本質とそれを踏まえた未来展望について自己の意見を述べることができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の原理とは、教育という営みを支えている理念的、構造的法則のことである。本講義では、わが国の公教育制度に焦点を当て、その理念的、構造的特徴を考察する。さらに、教育政策の動向や今日的な教育的・社会的問題を踏まえながら公教育制度の原理的問題ならびに新しい教育システムとしての生涯学習体系について考察し、これからの教育の課題を考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス～私が考える「教育」、「学校」</p> <p>第2回：教育とは何か（1）教育の概念と基本的機能</p> <p>第3回：教育とは何か（2）わが国の教育の理念および目標</p> <p>第4回：西洋と日本の教育家たち（1）子ども観と教育の展開</p> <p>第5回：西洋と日本の教育家たち（2）学校観の系譜</p> <p>第6回：西洋と日本の教育家たち（3）教育方法の思想</p> <p>第7回：公教育とは何か～戦後公教育制度の基本理念と特徴</p> <p>第8回：学校教育制度の原理（1）教育の形態と学校教育の制度的特徴</p> <p>第9回：学校教育制度の原理（2）学習指導要領と教育課程の編成</p> <p>第10回：学校教育制度の原理（3）学校経営と学校の組織文化</p> <p>第11回：学校教育制度の原理（4）教育の過程と経営の過程</p> <p>第12回：学校教育制度の原理（5）学校の社会的機能</p> <p>第13回：教育の現代的課題（1）歴史社会学的視点からの接近</p>			

第14回：教育の現代的課題（2）教育政策の動向からの接近  
第15回：これからの教育システム～生涯学習体系の展望

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート（70%）、課題（30%）で評価する。

授業科目名:教育史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名:勝山 吉章 担当形態:単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西洋及び日本の教育史の基礎的事項について、多様な教育の理念と関わらせながら理解する。</li> <li>・ 教育及び学校の歴史的変遷を、社会状況やそれを背景とする家族・社会による教育の展開に注目しながら理解する。</li> <li>・ 近代教育制度の成立と展開を理解する。</li> <li>・ 現代の教育課題について、歴史的視点から考察できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の歴史を学ぶ主目的の一つは、未来を担う子どもたちの教育のあり方を探る教職希望者が、教育制度の成立と展開等の教育の歴史に関する基礎的知識を身につけることはもとより、現代社会が抱える教育課題を解決するための手がかりを歴史の中に見いだすことにある。本授業では、史料の解読、検証を通して、教育の歴史的展開を社会状況および理念（価値）と関連づけながら考察していく。さらに、教育の歴史的展開のなかに、現代の教育課題を意義づけながら、今後の教育の方向性を探求していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会の発達と「教育」機能の拡大—家族から社会へ—</p> <p>第2回：近代以前の教育（1）古代ギリシア・ローマの教育</p> <p>第3回：近代以前の教育（2）ヨーロッパ中世の教育</p> <p>第4回：近代教育の黎明—17～18世紀の教育—</p> <p>第5回：近代公教育制度の成立と展開—19世紀～現代の教育—</p> <p>第6回：日本の公教育を考える—現代の教育課題と歴史的考察の意義—</p> <p>第7回：公教育の萌芽と古代教育制度の成立—飛鳥・奈良時代の教育—</p> <p>第8回：公教育の衰退—中世の教育—</p> <p>第9回：公教育の再生—江戸時代の教育—</p> <p>第10回：近代公教育制度の成立—明治の教育と近代学校—</p> <p>第11回：近代公教育制度の展開—戦前の教育</p> <p>第12回：戦後教育改革の変遷（1）教育の民主化と教育基本法の制定</p> <p>第13回：戦後教育改革の変遷（2）高度経済成長と教育の拡充政策～「教育内容の現代化」</p> <p>第14回：戦後教育改革の変遷（3）教育の「荒れ」の顕在化と自由化・多様化政策への転換</p> <p>第15回：戦後教育改革の変遷（4）今日の教育課題の歴史的意義と新しい教育の展望</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

勝山吉章編著（2011）『西洋の教育の歴史を知る—子どもと教師と学校をみつめて—（現場と結ぶ教職シリーズ）』あいり出版。

山住正己（1987）『日本教育小史—近・現代—』岩波新書。

参考書・参考資料等

山本正身（2014）『日本教育史—教育の「今」を歴史から考える』慶応義塾出版会。

学生に対する評価

定期試験（50%）、課題（50%）の割合で評価する。

授業科目名：教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：友枝 文也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容、チーム学校、教育実習を通して現代社会における専門職としての教師とは何かを理解する。こうした学びを通して、教職への意欲を高め、最終的に教職を選択することの可否の適性判断に資する各種の機会を提供する教職の在り方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、講義・討議・演習を通して下記の授業計画に沿って教職に関する専門的知識を身に付けることはもちろんのこと、「教職の意義」、「教員の役割・資質能力・職務内容」、「チーム学校」について課題を出し、小論文や全体討論を通して教師になる意欲や科学的論述力・表現力、専門職としての自覚性をふくらませる。また、チーム学校を通して、学校総体としてのチーム力の向上を一人一人が教職をめざす者として考える機会にしたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：なぜ教師を目指すのか—教員をめぐる情勢と今日の学校教育を踏まえて</p> <p>第2回：教職とは何か—教職に関する法制と特殊性および近年の改革</p> <p>第3回：教職の教育的意義と社会的意義</p> <p>第4回：教職観の変遷</p> <p>第5回：今日の教員に求められる役割—学習者、教育委員会、保護者などにとっての理想教師</p> <p>第6回：教員の任用—配置、資格、身分、任用、任命権者</p> <p>第7回：教員の職務内容の全体像</p> <p>第8回：教師の資質向上—教師研修の意義</p> <p>第9回：各種研修制度</p> <p>第10回：教員のサービス—職務上・身分上の義務、身分保障と分限・懲戒、勤務条件</p> <p>第11回：チーム学校—学校教育の質の向上をめざす新しい学校像をめざして</p> <p>第12回：事例考察：先進県の「チーム学校」—「芯の通った学校組織」推進プラン</p> <p>第13回：教育実習の意義と心得</p> <p>第14回：教育実習と学習指導案の作成</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

『教職概論』（第4次改訂版）、佐藤晴雄、学陽書房、2015年。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験（50%）、課題（50%）の割合で評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山原智 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の状況を理解し、教育政策の動向を理解する。</li> <li>・現代公教育制度の意義・原理・構造について理解する。</li> <li>・学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。</li> <li>・学校との連携の意義や地域との協働の仕方について理解する。</li> <li>・学校安全の目的と取組を理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、教職をめざす学生が教職教養として現代公教育制度全般についての知識を習得できることをねらう。各学校に関する知識をもとに、教育制度に内在する課題について各自が思案し議論できるようディスカッションの機会を多く提供し、社会状況に照らしながら多角的に考察できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー教育制度を学ぶ意義を踏まえてー</p> <p>第2回：社会の特質と学校を巡る現代的課題</p> <p>第3回：近年の教育政策の動向</p> <p>第4回：諸外国の教育事情及び教育改革の動向</p> <p>第5回：公教育の理念と原理</p> <p>第6回：教育関係法規</p> <p>第7回：教育行政の理念と仕組み</p> <p>第8回：学校経営の望むべき姿</p> <p>第9回：学校における教育活動とPDCA</p> <p>第10回：学校経営の仕組みと効果的な方法</p> <p>第11回：学校内外の連携・協働</p> <p>第12回：地域との連携・協働による学校教育活動</p> <p>第13回：開かれた学校作りの推進</p> <p>第14回：学校安全の必要性</p> <p>第15回：安全管理及び安全教育の取り組み</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

定期試験（50%）、課題（50%）の割合で評価する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口雄介
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童・生徒の発達に関する代表的理論をふまえ、教育における発達理解などの意義を理解している。</li> <li>・ 運動・言語・認知発達などについて具体的な内容を理解している。</li> <li>・ 学習に関する代表的理論の基礎を理解している。</li> <li>・ 主体的な学習活動を支える動機づけ、集団作り、学習評価の在り方について理解し、指導の基礎となる考え方を理解している。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の中でも、主に学習・発達・教育評価などの領域に関する幅広い知識を習得し、理解を深めることで、児童・生徒が学ぶさまざまな場面について心理学的視点に立って考察できるようになることを目的とする。授業では、下記の授業計画に記載した内容について、講義、個人ワーク、グループワークなどを実施する。受講生は、自分のさまざまな経験を振り返り、知識と関連づけながら深い理解に至ることが期待される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学の目的</p> <p>第2回：教育における発達理解</p> <p>第3回：発達の基礎</p> <p>第4回：運動発達・言語発達</p> <p>第5回：認知発達・多重知能</p> <p>第6回：発達段階・メタ認知</p> <p>第7回：社会性の発達</p> <p>第8回：ソーシャルスキルの育成</p> <p>第9回：自己の発達</p> <p>第10回：キャリア発達</p> <p>第11回：学習理論</p> <p>第12回：教育における学習</p> <p>第13回：動機づけ</p>			

第14回：学習評価

第15回：生徒の発達に応じた、集団づくりと学習支援

定期試験

テキスト

『児童生徒理解のための教育心理学』古屋喜美代・関口昌秀・荻野佳代子編 ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(70点)、レポートおよび課題(30点)で評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今村 裕 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の障害の特性や心身の発達を理解する。</li> <li>・ 特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</li> <li>・ 障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習あるいは生活上の困難とその対応を理解する。</li> </ul>			
授業の概要：インクルーシブ教育とは、さまざま異なる教育的ニーズを持った者が、一緒に学習したり生活したりすることで、社会は進展していくという方向性を持った考え方であり、特別支援教育はこれを実現するシステムである。近年、こうした支援ニーズのある児童・生徒の背景に発達障害などの問題があることが指摘されることが多い。教員免許を取得する学生には教科指導に関する高い専門性が要求されると同時に、そうした専門性が様々な支援ニーズのある生徒たちに生かされるためには学習や生活に苦戦する児童・生徒の状況を障害という視点からとらえることが必要となる。そのため本授業では、障害のある子どもの学習過程に関する理解を深めると同時に、障害の理解とそれに対する教育の制度や方法についての基本的な知識を深めていくこととする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（障害に関する意識・知識の調査など） 第2回：特別支援教育に関する理念と仕組み 第3回：子どもの発達と障害（心理的特性と学習過程） 第4回：障害の理解 ①（視覚障害） 第5回：障害の理解 ②（聴覚障害） 第6回：障害の理解 ③（肢体不自由・病弱・虚弱） 第7回：障害の理解 ④（知的障害） 第8回：障害の理解 ⑤（発達障害） 第9回：障害の理解 ⑥（自閉症ほか、LD、ADHDほか） 第10回：通級による指導及び自立活動 第11回：個別の指導計画及び個別の支援計画 第12回：支援体制の構築 ①（特別支援教育コーディネーターとの連携） 第13回：支援体制の構築 ②（関係機関及び家庭との連携）			

第14回：特別の教育的ニーズのある生徒

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

適宜、プリント・資料を配付する。

参考書・参考資料等

『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門』大塚 玲編著 萌文書林(2015)

『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 講談社現代新書 (2007)

学生に対する評価

定期試験 (70%)、課題 (30%) で評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山原 智
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>学習指導要領の性格、位置付け、改訂の変遷、内容、その社会的背景、並びに教育課程の社会において果たしている役割や機能、編成の目的を理解している。</p> <p>教育課程編成の基本原理や、単元・学年・またいだ長期的な視野から、また生徒、学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解し、教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。</p> <p>カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の基本的な考え方を理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領、教育課程、カリキュラム・マネジメント等に関する様々な基本事項の理解のため講義を行うとともに、実際の教育課程の編成事例を取り入れ、個人別に課題を与え、これをもとに発表・協議の機会を設ける</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～組織的、体系的な教育とは～</p> <p>第2回：学校教育と教育課程</p> <p>第3回：学習指導要領の歴史</p> <p>第4回：学習指導要領と教育課程</p> <p>第5回：教育課程と教育制度の社会背景</p> <p>第6回：教育実践と教育課程</p> <p>第7回：教育課程と学校組織</p> <p>第8回：教育課程と教育指導計画</p> <p>第9回：教育課程と授業編成</p> <p>第10回：教育課程と指導案</p> <p>第11回：教育課程編成の実際</p> <p>第12回：現代の教育課題</p> <p>第13回：教育課程の改善</p>			

第14回：カリキュラム・マネジメントと学校運営

第15回：カリキュラム評価

定期試験

テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年7月 文部科学省）

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』（最新版）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、活動内容（20％）、課題（30％）で評価する。

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河口 陽子
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳の理論及び指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳にかかわる今日的な社会・教育における問題状況を踏まえつつ、「道徳」とは何かについて説明できる。</li> <li>・道徳教育の歴史的変遷、現状および課題について説明できる。</li> <li>・道徳教育ならびに道徳科の目標と内容を説明できる。</li> <li>・道徳科の指導過程や指導方法に関する基本的事項、ならびに教材の特性を理解し、授業づくりに活かすことができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、西洋的なモラルとしての道徳と伝統的な日本的道徳の違いを踏まえながら、学校教育に求められる「道徳」教育について考えることを目的とする。そこで、「道徳」の本質的特性の探究を基底に置きつつ、学校教育における道徳の捉え方についての理解を深めるとともに、実際の道徳の授業へとつなげる実践的なスキルを身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「道徳」とは何か（1）一般的定義からの検討</p> <p>第2回：「道徳」とは何か（2）道徳教育の変遷にみる道徳</p> <p>第3回：「道徳」とは何か（3）教育・社会の現代的課題と道徳</p> <p>第4回：子どもの発達と道徳教育（1）社会性の発達</p> <p>第5回：子どもの発達と道徳教育（2）道徳性の発達</p> <p>第6回：道徳教育の目標・内容と指導計画</p> <p>第7回：道徳の授業をつくる（1）道徳科のねらいと教材</p> <p>第8回：道徳の授業をつくる（2）道徳科の指導方法</p> <p>第9回：道徳の授業をつくる（3）道徳教育における評価</p> <p>第10回：道徳の授業をつくる（4）教科・領域間の連携・工夫</p> <p>第11回：模擬授業（1）学習指導案の作成と学習評価の検討</p> <p>第12回：模擬授業（2）教材の活用と板書の工夫</p>			

第13回：模擬授業（3）体験活動、言語活動を活かした授業  
第14回：模擬授業（4）ゲストティーチャーを活用した授業  
第15回：まとめ～日本の道德教育の課題

テキスト

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

レポート（50%）、模擬授業（20%）、製作物・提出物（30%）で評価する。

授業科目名：特別活動 及び総合的な学習時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：友枝文也 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>特別活動の意義、目標及び内容を理解し、教職課程における特別活動の位置づけとともに、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特質を理解する。また、総合的な学習の時間の意義や各教科等との関連を図りながら年間指導計画作成の重要性、留意事項、具体的な単元計画事例を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領とともに具体的な事例集に基づく講義、ディスカッション、指導計画案作成、及び発表等を通じて、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法を実践的に獲得できるよう工夫する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義</p> <p>第2回：高等学校学習指導要領特別活動編の目的・内容</p> <p>第3回：ホームルーム活動・学校行事の目標と活動内容・指導計画</p> <p>第4回：ホームルーム活動の指導計画の実際（1）年間指導計画案の作成</p> <p>第5回：ホームルーム活動の指導計画の実際（2）年間指導計画案の検討</p> <p>第6回：生徒会・クラブ活動の目標及び内容、指導計画</p> <p>第7回：生徒会活動の指導計画の実際（1）年間指導計画案の作成</p> <p>第8回：生徒会活動の指導計画の実際（2）年間指導計画案の検討</p> <p>第9回：特別活動の評価及び指導上における工夫の在り方の実践</p> <p>第10回：総合的な学習の時間の目標及び内容改訂の意義</p> <p>第11回：総合的な学習の時間の各学校において定める目標及び内容</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の指導計画の実際（1）年間指導計画案の作成</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の指導計画の実際（2）年間指導計画案の検討</p> <p>第14回：総合的な学習の時間の評価の工夫</p> <p>第15回：総合的な学習の時間の学習指導の在り方及び授業のまとめ</p>			

定期試験
------

テキスト
------

『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成 29 年 7 月 文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（最新版）

参考書・参考資料等
-----------

日本特別活動学会監修『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』 東洋館出版社

石堂常世編著『中学・高校版 総合的な学習の時間 教材研究 ー素材をどう生かすかー』  
学文社

学生に対する評価
----------

定期試験（50%）、発表内容（20%）、製作物・提出物（30%）で評価する。

授業科目名： 教育の方法及び技術 (ICTの活用含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山原 智 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教育により求められる資質・能力の育成に必要な教育方法の基礎的理論と実践、教育方法の在り方、授業を構成する基礎的要件、及び学習評価の基礎的な考え方を理解している。</p> <p>授業の目的に適した指導技術を理解し身に付け、学習指導案を作成することができる。</p> <p>情報通信技術の意義や理論を理解し、これを活用した効果的な学習指導や校務の推進の在り方を理解できるとともに、情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための指導法を理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の方法、教育の技術、情報通信技術を活用した学習指導、校務に関する基礎的な知識・技能について講義をおこなうとともに、教育現場の実践事例を取り入れ、個人別に課題を与え、これをもとに発表・協議の機会を設ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の方法・理論と情報通信技術</p> <p>第2回：授業と学力</p> <p>第3回：教授理論、形態の類型</p> <p>第4回：教授組織と学習組織</p> <p>第5回：学習評価と学力観</p> <p>第6回：情報通信技術の活を取り入れた学習評価の実際</p> <p>第7回：学習指導要領と教育課程</p> <p>第8回：教育課程の意義、編成とマネジメント</p> <p>第9回：情報通信技術の意義と理論</p> <p>第10回：情報通信技術と校務</p> <p>第11回：情報活用能力（情報モラルを含む。）の育成</p> <p>第12回：指導案と教育課程</p> <p>第13回：指導案と情報通信技術の活用を採り入れた指導・評価</p>			

第14回：指導案と情報通信技術の活用を採り入れた教材

第15回：指導案と情報通信技術・情報活用能力

定期試験

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年3月 文部科学省）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年3月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（50％）、活動内容（20％）、制作物・提出物（30％）で評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河口 陽子
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導および進路指導の今日的意義を、社会的・教育的背景を踏まえながら説明できる。</li> <li>・ 生徒指導および進路指導の基礎的事項を理解し、教育実践に活かすことの意義を説明できる。</li> <li>・ 生徒の自己理解および自己肯定感の醸成を促進する生徒指導および進路指導の意義を理解し、実践的な方法について述べるができる。</li> <li>・ 問題行動の現状についての理解を深め、対応のあり方や方法について説明できる。</li> <li>・ キャリア教育、キャリア形成の視点から進路指導の意義と方法について述べるができる。</li> </ul>			
授業の概要 <p>本講義では、「生きる力」の育成をめざした生徒指導および進路指導の今日的意義、またそれを支える基本的理念及び原理について理解を深めるとともに、学校教育においてそれらが果たす機能について教育課程との関連を踏まえながら検討していく。さらにその過程で、基礎理論のレビュー、社会的・教育政策的背景の検討、学校現場の実態等の考察も行なう。</p>			
授業計画 <p>第1回：学校現場での生徒指導の実態</p> <p>第2回：トピックス&lt;校則問題&gt;校則指導と法的根拠</p> <p>第3回：生徒指導の今日的意義と課題～子どもの実態と教育政策の動向を踏まえながら</p> <p>第4回：生徒指導の原理～集団指導と個別指導</p> <p>第5回：生徒指導の実践（1）自己理解の促進と自己肯定感の醸成</p> <p>第6回：生徒指導の実践（2）問題行動の現状と対応 ～暴力行為、不登校、いじめ、SNSトラブル、自殺</p> <p>第7回 生徒指導の実践（3）問題行動の現状と対応～児童虐待問題と関係諸機関との連携</p> <p>第8回：生徒指導の実践（4）機能としての生徒指導～各教科等における生徒指導の意義</p> <p>第9回：生徒指導の実践（5）学内外の協働体制の構築と組織的・計画的指導の実践</p> <p>第10回：生徒指導と教育相談</p> <p>第11回：進路指導の意義と原理</p> <p>第12回：キャリア教育における今日的課題と体験的活動の意義</p> <p>第13回：キャリア教育の実践（1）キャリア形成における自己理解の意義とポートフォリオ活用</p>			

第14回：キャリア教育の実践（2）キャリア・カウンセリングの理論と実践

第15回：キャリア教育の実践（3）ガイダンス機能を活かしたキャリア教育の促進

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』

文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』

学生に対する評価

レポート（70%）、課題（30%）

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口雄介
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における教育相談の意義等を理解している。</li> <li>・教育相談に関わる心理学の基礎を理解している。</li> <li>・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性和カウンセリングの基礎を理解している</li> <li>・教育相談の具体的な進め方や専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>学校現場では教師が専門的カウンセリングを実施する必要はない。しかしながら、児童・生徒の心の発達支援にあたっては、カウンセリングマインドを持った対応やスクールカウンセラーとの連携は必須となる。また、困難な事例に関しては、学校全体で対応する視点も必要となる。授業では、教師として、教育相談を行うにあたって必要なさまざまな基礎理論や技法の理解を目的とする。講義前半では、児童・生徒の心の発達理論の学習とともに、不登校やいじめ、発達障害などの問題と対応について理解を深める。次いで、ロールプレイによる演習を通してカウンセリングの理論や技法について学ぶ。また、後半では、関係者や保護者、スクールカウンセラー、校外の専門機関との連携の視点について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育相談の意義と目的</p> <p>第2回：教育相談に関わる心理学の基礎</p> <p>第3回：乳幼児期における子どもの問題</p> <p>第4回：虐待・不登園について</p> <p>第5回：児童期における子どもの問題</p> <p>第6回：不登校・学習障害について</p> <p>第7回：思春期における子どもの問題</p> <p>第8回：いじめについて</p> <p>第9回：発達障害の理解と支援</p> <p>第10回：精神疾患の理解と支援</p>			

第11回：カウンセリングの基礎理論  
第12回：カウンセリングの基礎技法  
第13回：学級集団へのグループアプローチ  
第14回：校内における協力体制  
第15回：地域の専門機関との連携  
定期試験

テキスト

『教師のたまごのための教育相談』 会沢信彦・安齋順子著 北樹出版

参考書・参考資料等

適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、レポートおよび課題（30%）で評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名：友枝文也、河口陽子			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	40人				
	グループA 20人(友枝文也担当)、グループB 20人(河口陽子担当)				
教員の連携・協力体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容に応じてグループと合同の学習形態を併用実施し、教員の協働授業体制で臨む。特に生徒指導、授業研究に関連する授業においては、複数教員で支援にあたる。</li> <li>教育委員会、地域の学校との連携を図る</li> </ul>				
授業のテーマ及び到達目標	<p>①教師に求められる資質・能力について自らを振り返り、課題を明確化し、意欲をもってその達成に努めることができるようになる。</p> <p>②生徒指導、学級経営等の基本を理解し、学校現場体験による教職疑似体験を通してそれらの実践的指導力を高める。</p> <p>③学習指導の基本を理解し、学校現場体験や模擬授業を通してその実践力を高める。</p> <p>④学習指導、及び校務全般において、ICTの積極的な活用がおこなえるよう実践力を高める。</p>				
授業の概要	<p>自己の修学の経験や教職に関する科目の履修を踏まえて、自己の受けてきた「教育」について、教育行政制度から理論的、体系的に再確認させる。また、教育課程の意義、構成、課題等を総合的に再考する。また、グループディスカッション、ロールプレイを通じて他者の考えや異なる考えなど、幅広い学修の機会が得られることを目標とする。</p>				
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 大学生活で培ってきたこと及び教育実習を振り返って</p> <p>第2回：教師に求められる資質能力(1) (講義 (ICTの積極的活用を含む))</p> <p>第3回：教師に求められる資質能力(2) (グループディスカッション)</p> <p>第4回：学校現場体験 (特別支援学校)</p> <p>第5回：学校現場体験のまとめと討議～特別支援教育を考える</p> <p>第6回：生徒理解と学級経営～学級経営案の作成</p> <p>第7回：生徒指導の基本的な考え方</p> <p>第8回：生徒指導の実際(1) 生徒の問題行動への対応 (ロールプレーイング)</p> <p>第9回：生徒指導の実際(2) トラブルへの対応 (ロールプレーイング)</p> <p>第10回：望ましい授業の在り方とはどうあるべきか(1) (作文)</p> <p>第11回：望ましい授業の在り方とはどうあるべきか(2) (発表・協議) (1)</p> <p>第12回：望ましい授業の在り方とはどうあるべきか(3) (発表・協議) (2)</p> <p>第13回：履修カルテに基づく学校研修のまとめと討議～学校教育の課題と教師に求められる力量を考える (ICTの積極的活用を含む)</p> <p>第14回：まとめ(1) 教職課程履修の自己評価 (成果と課題) 発表、討議</p> <p>第15回：まとめ(2) 教職(社会人)として活動するための心構え (講義)</p>				

テキスト
なし
参考書・参考資料等
・教職に関する本学使用のテキスト
・適宜、資料を配布
学生に対する評価
協議への参加状況 (40%) 発表内容 (30%) レポート (30%)

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平 誠一
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分	日本国憲法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法の意義、日本国憲法の基本原理を理解する。</li> <li>・憲法と国家および国民との関係を理解する。</li> <li>・包括的人権と法の下での平等の概念を理解する。</li> <li>・各種人権（自由権、社会権、参政権）の概念を理解する。</li> <li>・国民の義務について説明できる。</li> <li>・国会・内閣・裁判所の関係と役割を理解するとともに、説明できる。</li> <li>・地方自治を理解する。</li> <li>・憲法訴訟を理解する。</li> <li>・最近の憲法の動向を理解する。</li> <li>・諸外国の憲法にも目を向ける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>憲法は「国家の基本法」といわれるほど重要なものであり、その国の体制を決定づけ、人権保障の根拠となる。本講義では、憲法に規定されている基本的人権はいかなるものであり、実際に生じた訴訟の中でそれがどのように位置づけられているか事例を用いながら学習する。また、統治の基本原則は国民主権と権力分立であるが、権力分立のねらいは国民の自由・権利を保障することにある。そこで、人権の保障と民主主義を実現するために憲法に定められている統治機構の全体像を把握し、現実の運用や学説・判例を参照しながら学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：国家と憲法</p> <p>第2回：日本国憲法の基本原理</p> <p>第3回：包括的人権と法の下での平等</p> <p>第4回：精神的自由（1） 内心の自由</p> <p>第5回：精神的自由（2） 表現の自由</p> <p>第6回：経済的自由（1） 営業の自由</p> <p>第7回：経済的自由（2） 財産権</p> <p>第8回：社会権（1） 生存権・教育権</p> <p>第9回：社会権（2） 勤労権と労働基本権</p> <p>第10回：人身の自由（1） 基本原則と被疑者の権利</p>			

第11回：人身の自由（2） 被告人の権利

第12回：国務請求権、参政権、国民の義務

第13回：国会と内閣

第14回：裁判所と憲法訴訟

第15回：地方自治

定期試験

テキスト

新・エッセンス憲法（安藤高行著、法律文化社）

参考書・参考資料等

ポケット六法（有斐閣）

学生に対する評価

定期試験（80%）、レポート（20%）で評価します。

授業科目名： スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蘭 和真
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	体育		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツのルール、マナー等を理解し、安全に楽しく参加できるようになる。</li> <li>2. 基本的な技能を身につけ、スポーツの特性が説明できるようになる。</li> <li>3. 準備、片付け、活動運営に協力し、積極的、主体的に参加できるようになる。</li> <li>4. 審判法を理解し、ゲーム運営に参画できるようになる。</li> </ol>			
授業の概要			
健康づくりと豊かな人間性の涵養を目指し、スポーツの楽しさや技能を身につけ、スポーツを生活習慣に取り入れる資質を養う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：基本練習（1）－基本技術の知識－			
第3回：基本練習（2）－基本技術の修得－			
第4回：基本練習（3）－基本技術の応用－			
第5回：基本練習（4）－中級技術の修得－			
第6回：基本練習（5）－中級技術の応用－			
第7回：ゲーム形式での練習（1）－基本的なゲーム練習－			
第8回：ゲーム形式での練習（2）－基本的なゲーム練習の応用－			
第9回：ゲーム形式での練習（3）－公式戦への導入－			
第10回：ゲーム・リーグ戦運営（1）－チーム決め－			
第11回：ゲーム・リーグ戦運営（2）－初歩的な公式戦－			
第12回：ゲーム・リーグ戦運営（3）－より高度な公式戦－			
第13回：ゲーム・リーグ戦運営（4）－高度な公式戦－			
第14回：ゲーム・リーグ戦運営（5）－公式戦の最終仕上げ－			
第15回：記録の集計とまとめ			
テキスト			
特になし			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

技能（50％）、知識（20％）、積極的・主体的な取り組み（30％）

授業科目名： 英語ⅣA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ダンコウズ サムエル
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Communicate to some extent about various topics, while using English-specific conversational expressions.</li> <li>2. Write short paragraphs, descriptive texts, comments on various topics Communicate in English via e-mail, such as status reports.</li> <li>3. Actively communicate in English while enjoying class.</li> </ol> <p>1.英語特有の会話表現を使用しながら、さまざまなトピックについてある程度コミュニケーションします。</p> <p>2.短い段落、説明文、さまざまなトピックに関するコメントを作成します。ステータスレポートなどの電子メールを介して英語で通信します。</p> <p>3.授業を楽しみながら、積極的に英語でコミュニケーションを図ります。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>This high-intermediate course aims at improving the 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a strong focus on communication skills through various topics.</p> <p>この中級コースは、さまざまなトピックを通じてコミュニケーションスキルに重点を置いて、4つの英語スキル（読む、書く、聞く、話す）を向上させることを目的としています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：テキストの紹介・説明</p> <p>第2回：Unit 1: I Love Making Jewelry! (Lesson A) ジュエリー作りが大好き！（レッスンA）</p> <p>第3回：Unit 1: I Love Making Jewelry! (Lesson B) ジュエリー作りが大好き！（レッスンB）</p> <p>第4回：Unit 2: How Long Have You Been Playing Cricket? (Lesson A) クリケットをプレイしてどのくらいですか？（レッスンA）</p> <p>第5回：Unit 2: How Long Have You Been Playing Cricket? (Lesson B) クリケットをプレイしてどのくらいですか？（レッスンB）</p> <p>第6回：Unit 3: You Could Ask For Advice. (Lesson A) アドバイスを求めることができます。（レッスンA）</p>			

第7回 : Unit 3: You Could Ask For Advice. (Lesson B) アドバイスを求めることができます。 (レッスンB)

第8回 : Review Unit 1 - Unit 3 ユニット1-ユニット3を確認する

第9回 : Unit 4: The Koala Was Taken to A Shelter. (Lesson A) コアラは避難所に連れて行かれました。 (レッスンA)

第10回 : Unit 4: The Koala Was Taken to A Shelter. (Lesson B) コアラは避難所に連れて行かれました。 (レッスンB)

第11回 : Unit 5: How Was It Formed? (Lesson A) それはどのように形成されましたか? (レッスンA)

第12回 : Unit 5: How Was It Formed? (Lesson B) それはどのように形成されましたか? (レッスンB)

第13回 : Unit 6: Look at that Narwhal! (Lesson A) そのナルハルを見てください! (レッスンA)

第14回 : Unit 6: Look at that Narwhal! (Lesson B) そのナルハルを見てください! (レッスンB)

第15回 : Review Unit 4 - Unit 6 ユニット4-ユニット6を確認する  
定期試験

テキスト

Time Zones 4 (Second Edition)( David Bohlke, et al, Cengage Learning)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

- ・ Class participation 30% ラス参加30%
- ・ Assignments (HW, presentations, etc.) 30% 課題 (ハードウェア、プレゼンテーション等) 30%
- ・ Tests/Exams (midterm, final) 40% 試験・試験 (中間・最終) 40%

授業科目名： 英語IV B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ダンコウズ サムエル
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Communicate to some extent about various topics, while using English-specific conversational expressions.</li> <li>2. Write short paragraphs, descriptive texts, comments on various topics Communicate in English via e-mail, such as status reports.</li> <li>3. Actively communicate in English while enjoying class.</li> </ol> <p>1.英語特有の会話表現を使用しながら、さまざまなトピックについてある程度コミュニケーションします。</p> <p>2.短い段落、説明文、さまざまなトピックに関するコメントを作成します。ステータスレポートなどの電子メールを介して英語で通信します。</p> <p>3.授業を楽しみながら、積極的に英語でコミュニケーションを図ります。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>This high-intermediate course aims at improving the 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a strong focus on communication skills through various topics.</p> <p>この中級コースは、さまざまなトピックを通じてコミュニケーションスキルに重点を置いて、4つの英語スキル（読む、書く、聞く、話す）を向上させることを目的としています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：テキストの紹介・説明</p> <p>第2回：Unit 7: It Might Have Been A Temple. (Lesson A) それは寺院だったかもしれません。 (レッスンA)</p> <p>第3回：Unit 7: It Might Have Been A Temple. (Lesson B) それは寺院だったかもしれません。 (レッスンB)</p> <p>第4回：Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower! (Lesson A) エッフェル塔より背が高い！（レッスンA）</p> <p>第5回：Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower! (Lesson B) エッフェル塔より背が高い！（レッスンB）</p>			

第6回 : Unit 9: He's A Great Director, Isn't He? (Lesson A) 彼は素晴らしい監督ですよ？ (レッスンA)

第7回 : Unit 9: He's A Great Director, Isn't He? (Lesson B) 彼は素晴らしい監督ですよ？ (レッスンB)

第8回 : Review Unit 7 - Unit 9 ユニット7-ユニット9を確認する

第9回 : Unit 10: I Wish I Could Be An Athlete! (Lesson A) 私はアスリートになれたらいいのに！ (レッスンA)

第10回 : Unit 10: I Wish I Could Be An Athlete! (Lesson B) 私はアスリートになれたらいいのに！ (レッスンB)

第11回 : Unit 11: What Would You Do? (Lesson A) あなたはどうしますか？ (レッスンA)

第12回 : Unit 11: What Would You Do? (Lesson B) あなたはどうしますか？ (レッスンB)

第13回 : Unit 12: You Should Eat More Fruit! (Lesson A) もっと果物を食べるべきです！ (レッスンA)

第14回 : Unit 12: You Should Eat More Fruit! (Lesson B) もっと果物を食べるべきです！ (レッスンB)

第15回 : Review Unit 10 - Unit 12 ユニット10-ユニット12を確認する

定期試験

テキスト

Time Zones 4 (Second Edition)( David Bohlke, et al, Cengage Learning)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

- ・ Class participation 30% ラス参加30%
- ・ Assignments (HW, presentations, etc.) 30% 課題 (ハードウェア、プレゼンテーション等) 30%
- ・ Tests/Exams (midterm, final) 40% 試験・試験 (中間・最終) 40%

授業科目名: 情報リテラシー I (ビジネススキル)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 森 由紀
			担当形態: 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>コンピュータの基本的な機能等を説明できる。</p> <p>コンピュータの補助記憶装置、周辺装置のハードウェアを理解した上で利用できる。</p> <p>コンピュータの基本的なソフトウェアやファイルシステムを理解した上で利用できる。</p> <p>学内システムを操作できる。</p> <p>Webメールおよび電子メールの設定、送受信ができる。</p> <p>Windowsを使用してフォルダとファイルの操作および文字・文章の入力ができる。</p> <p>文書作成ソフトを使って文章の入力、保存、印刷、複製、削除などの操作ができる。</p> <p>文書作成ソフトを使って表の作成と編集ができる。</p> <p>文書作成ソフトを使ってグラフィックスを用いた文章の作成・編集ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICTを活用して、学生・社会人として必要な情報を使いこなす知識と能力を習得することを目標とする。</p> <p>そのため、コンピュータの知識を習得し、コンピュータ社会に関わるための基礎となる素養を身につける。</p> <p>情報を分析し報告資料を作成するためのツールである文書作成 (Word) ソフトを用いた効果的な手法を学び、演習を通じて十分に使いこなす知識と技能を習得する</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション コース概要、学内システムについて(各種システム説明、メールアカウントの説明)</p> <p>第2回:Office365のサインインと操作方法、Teamsの操作方法</p> <p>第3回:Windowsの基礎 フォルダとファイル操作、文字入力、文章入力</p> <p>第4回:コンピュータ知識 コンピュータの基本機能</p> <p>第5回:コンピュータ知識 補助記憶装置、周辺装置</p> <p>第6回:補助記憶装置、周辺装置</p> <p>第7回:メール演習</p> <p>第8回:ワープロ (Word) 基本操作、新規文書の作成</p> <p>第9回:文書作成 (Word) 演習問題</p>			

第10回: 文書作成 文書の編集(範囲選択、移動とコピー、書式設定、段落)

第11回: 文書作成 (Word) 表の作成と編集(表の編集、デザインと配置)

第12回: 文書作成 (Word) 演習問題

第13回: 文書作成 (Word) グラフィックスの利用(ワードアート、画像の利用、図形の利用)

第14回: 文書作成 (Word) 演習問題

第15回: 総合演習

定期試験

テキスト

留学生のためのITテキスト (日本人学生も使える!) (森 由紀、平井 智子著 日経BP社)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験 (60%)、提出物 (40%) で評価する。

授業科目名: 情報リテラシーⅡ(AI ・データサイエンス)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 森 由紀
			担当形態:単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>ネットワークの要素技術について概要を説明できる。</p> <p>ネットワークおよびインターネットの仕組みについて概要を説明できる。</p> <p>電子メールシステムの基本原理および送受信のマナーを理解し実践できる。</p> <p>Webサイトで検索ができ、必要な情報を収集できる。</p> <p>プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。</p> <p>プレゼンテーションソフトでテンプレートを使って、スライドの作成、編集ができる。</p> <p>プレゼンテーションソフトを使って、SmartArtグラフィックなどを利用して図解を作成できる。</p> <p>表計算ソフトを使って表の作成、四則計算、オートフィル、編集、保存、印刷などの基本操作ができる。</p> <p>表計算ソフトを使って、平均、合計、最大、最小などの基本的な関数を利用できる。</p> <p>表計算ソフトを使って、いろいろな表示形式で表示することができる。</p> <p>表計算ソフトを使って、セルのスタイルを設定できる。</p> <p>表計算ソフトの相対参照、絶対参照の説明ができ、それらを使って計算ができる。</p> <p>表計算ソフトを使って基本的なグラフを作成できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICTを活用して、学生・社会人として必要な情報を使いこなす知識と能力を習得することを目標とする。</p> <p>そのため、コンピュータの知識及び通信情報ネットワークに関する基礎的な知識を習得し、コンピュータ社会に関わるための基礎となる素養を身につける。</p> <p>情報を分析し報告資料を作成するためのツールであるプレゼンテーション(PowerPoint)及び表計算(Excel)ソフトを用いた効果的な手法を学び、演習を通じて十分に使いこなす知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:オリエンテーション メール演習</p> <p>第2回:情報通信ネットワーク ネットワークの概要、インターネット</p> <p>第3回:情報通信ネットワーク 電子メール、インターネットへの接続</p> <p>第4回:情報通信ネットワーク Webサイトの検索、様々な情報システム</p> <p>第5回:メール演習</p> <p>第6回:プレゼンテーション(PowerPoint) 基本操作、プレゼンテーションの作成と編集</p>			

第7回:プレゼンテーション(PowerPoint) 図解の作成(スマートアートグラフィック、図形)

第8回:プレゼンテーション(PowerPoint) 演習問題 メール演習

第9回:表計算(Excel) 基本操作、表の作成(ブックの作成とデータ入力、修正)

第10回:表計算(Excel) 四則演算と関数(四則演算、基本的な関数、相対参照、絶対参照)

第11回:表計算(Excel) 演習問題

第12回:表計算(Excel) 表の編集(列幅と行の高さ、書式設定)、演習問題

第13回:表計算(Excel) グラフ(グラフの作成、編集)

第14回:表計算(Excel) 演習問題

第15回:総合演習

定期試験

テキスト

留学生のためのITテキスト(日本人学生も使える！)(森 由紀、平井 智子著 日経BP社)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験(60%)、提出物(40%)で評価する。